



大原美術館後援会会報

丸窓

[第33号] 令和7年11月

《掲載情報》

- ・大原美術館後援会事務局長森川より退職のご挨拶
- ・企画展「1925」について
- ・後援会活動報告 など

発行：大原美術館後援会事務局

退職のご挨拶

大原美術館後援会事務局長森川より退職のご挨拶

森川 政典



講演会の様子



レクチャーコンサートの様子



感謝の夕べの様子



東京会場での懇親会の様子



ギャラリーツアーの様子

みなさまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶びを申し上げます。平素より大原美術館の取り組みにお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。さて、今年の秋はどこに行ったのでしょうか？いきなり冬が訪れたようです。そして季節の変わり目に小職の職場も変わりました。急なご連絡で驚かれた方もいらっしゃると思います。誠に申し訳ございません。

実はこの10月末をもって約17年間お世話になった大原芸術財団を退職いたしました。大原美術館後援会の事務局長としても大変お世話になりました。改めて松井えり菜後援会会長をはじめ後援会会員のみなさまに心から感謝を申し上げます。振り返りますと、後援会会員制度を継承した時は約四百名の会員数でした。今は亡き坂口事務局長と二人三脚で会員の増強に力を注いだことが大変懐かしく思い出されます。作家原田マハさんを筆頭に応援大使制度の新設、ご紹介キャンペーンの実施、東京後援会会員の集いや夏のピアガーデン、冬の感謝の集いと様々な取り組みを実行してまいりました。お蔭をもちまして、その当時の2倍の八百名を超える会員数になりました。とはいえ、ここ数年これから大きく伸びることもなく目標の千名には届かない状況が続いています。後援会会員のみなさまは大きな対価を求められていない正に『応援団』であると私は感じています。コロナ禍でやむなく長期休館を決断した時も、後援会の会員カードも利用ができないことで有効期限の延長をいたしました。「本当に困っているときに無理はされず！」とたくさんのお志を頂戴しました。公益法人として税額控除の制度を継続するための百件以上の口数獲得のためにも、多くの方々から三千元／口以上のご寄付を頂戴しました。

このような数々の応援がどれだけ大原美術館の職員の心の支えとなり、本当に励まされたか！真に助けていただいていると実感した瞬間です。形あるものはいつか壊れるともいわれますが、一方で新たな価値を創出していくことも大事な取り組みです。ここにきて、後援会会員制度の見直しを含め、魅力を高めるチャンスだと思います。その意味でも、小職が事務局長として携わるよりも次世代へのバトン継承も良いタイミングではないかと実は感じています。

私はご縁あって、倉敷商工会議所に専務理事として勤務をすることになりました。不慣れな業務ではありますが「おもしろ、おかしゅうやっていこう！」と決意を新たにしました。「困ったと思わないこと」困ったと思うから負のスパイラルに落ち込みます。この言葉、何気ない言葉ですが実に奥が深いですね！人生の大先輩からの花向けの言葉であります。“ことの変化”も楽しめるよう自らを鍛え課していきたいと思ひます。

後援会会員みなさまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、引き続き大原美術館の活動に一層のご厚誼を賜りますようお願い申し上げ、略儀ではございますが退職のご挨拶といたします。本当にありがとうございました。感謝！ 拝

後援会企画を実施しました。

11月3日(月・祝)、後援会企画として「大原美術館ゆかりの地を巡るフレイル予防ツアー」を開催しました。当日は、フレイル予防のレクチャーのほか、大原美術館美ゆかりの地を巡るガイドツアーを実施しました。倉紡記念館や語らい座大原本邸では普段なかなか聞けないような解説を聞いて、大原家への関心も深まりました。ツアー後は、栄養に関するミニレクチャーもあり、秋晴れの中、約2時間にわたって心身ともにリフレッシュする時間となりました。美術館巡りは「運動」「社会参加」を取り入れた理想的なフレイル予防の場でもあります。無理のない範囲で、日々の生活の中にフレイル予防を意識した習慣を取り入れ、そのひとつとして大原美術館での鑑賞をぜひお楽しみください。



▲ツアー風景

「1925 百年前の考古学」大原美術館・倉敷考古館 初！2館同時開催の企画展「1925」

研究部 伴 祐子



1925年をテーマとしたこの展覧会では、倉敷考古館を会場として「1925 百年前の考古学」と題して考古学を取り巻く状況をご紹介します。1925年は岡山という地方において民間の研究者による考古学研究が組織的に動き出した頃でした。また児島虎次郎(1881-1929)がエジプト考古学に造詣が深かったことはよく知られており、児島虎次郎記念館に展示されているコレクションからも伺えます。しかし岡山県の民間研究者に先駆けて児島虎次郎も考古学と関わっていたことは知られていません。児島虎次郎のアトリエ兼住居の写真にはオリエントや中国、朝鮮の古美術品と並んで日本の須恵器が含まれています。「児島虎次郎略伝」に大原總一郎(1909-1968)が寄せた巻頭文には「子供の頃画室に遊びにいても、絵の話はあまり聞かなかった～(略)～日向の国の古墳の話、エジプトの遺跡の偉大さ、支那芝居の面白さなどというようなものがその内容であった。」とありました。児島の日記によれば、1913(大正4)年に宮崎県の茶臼原で古墳を発掘しています。それらの土器の所在については、倉敷考古館に収蔵されていた「児」の注記のある須恵器に「茶臼原」をはじめ地名を朱書きした土器と、写真の土器が一致しました。1925年、百年前に美術と考古学を繋いでいたのは他でもない児島虎次郎だったのです。大原美術館にご来館の際には、是非倉敷考古館に足を伸ばして児島虎次郎が発掘した土器をご覧になってはいかがでしょうか。会期中は、会員証ご提示で100円引きの400円で入場いただけます。



児島虎次郎アトリエ住居室内画像 個人蔵

名画カレンダーのご紹介！



価格¥1,100(税込)

2026年第54回名画カレンダーは児島虎次郎の《ベゴニアの畠》です。児島虎次郎記念館ブランドオープンを受け、さらに児島の作品に親しんでもらおうと採用しました。明るい光に包まれた優しい日常を感じられるこの作品のような一年を過ごしてもらえたらと願っています。



赤ちゃんサイズで愛らしく、ブロックで組み立てられたかのような表現を有しています。20世紀を代表する彫刻家アルベルト・ジャコメッティ。本作は、細長い人体のブロンズ彫刻で知られることになるジャコメッティが「ジャコメッティ」になる前の、世界的にも稀有な彼の初期作品です。

アルベルト・ジャコメッティ《キュビズム的コンポジションー男》
1926年 石膏に着色 64×28×20cm

大原美術館後援会会員の皆様、過日、アンケート調査を行いました際には、多くの方々にご協力いただきまして感謝申し上げます。皆様の貴重なご意見を今後の活動の参考にさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



「みんなのマイミュージアム基金」の情報は、右記QRコードからご覧いただけます。引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。



大原美術館後援会事務局 〒710-8575 岡山県倉敷市中央1-1-15
TEL(086)422-0005 FAX(086)427-3677
<https://www.ohara.or.jp/>



エル・グレコ《受胎告知》修復について

クラレグループ100周年事業の一環として、2025年7月より一般財団法人クラレ財団の助成を受け、所蔵するエル・グレコ《受胎告知》の修復事業を実施いたしました。16世紀半ばから17世紀初頭にかけてイタリア、スペインで活躍したギリシャ出身の画家エル・グレコ。地中海の偉大なる三文化に育まれた彼の絵画を修復するにあたっては、豊かな経験と高い技術力を誇る専門の修復家をスペインのプラド美術館から招聘し、弊財団の研究員・学芸員をはじめ、多くのスタッフが共同して取り組みました。修復作業の完了を記念した正式な再展示は、2026年4月からを予定しておりますが、この度、修復後の《受胎告知》の姿をいち早く皆様へお届けすべく、2025年12月21日までプレ再展示しております。鮮やかな色彩とエル・グレコ独特の表現がよみがえった作品をご覧いただけますと幸いです。

※2026年2月9日(月)～4月24日(金)は、改修工事のため全館休館いたします。